

## 視覚障害者とともに創る舞台芸術作品の アクセシビリティに関する研究

— 後付けではないアクセシビリティや創作の在り方について —

*Research into the Accessibility of Performing Arts Works Created Together with Visually  
Impaired People*  
— Accessibility and Creativity that are not Retroactive —

林 真智子 HAYASHI Machiko

(舞台芸術領域)

### 研究動機・背景

近年の舞台芸術業界においてセリフやシーンの状況を音声または文字で解説する「音声ガイド」や「字幕システム」、発話と同時にそれを文字化する「UD (Universal Design) トーク」の提供など、視覚や聴覚の障害の有無に関わらず舞台芸術作品を鑑賞するサポートを整える場が増えてきている。また、それらハード面のみならず劇場鑑賞に不安がある人も気軽に楽しむことを目的とした途中入退場自由、上演中の客席照明を明るくするなど、従来の鑑賞マナーをゆるくした上演形態「リラックス・パフォーマンス」も導入されるようになった。

このような中、自身も名古屋市中区に2023年4月にオープンした劇場「メニコンシアターAoi」で2023年および2024年に各1回ずつ、視覚障害の有無に関わらず演劇に触れる、楽しむことを主旨としたワークショップを企画実施した。

2023年は「見えない人も見える人も一緒に戯曲に触れる」というタイトルで同劇場で上演予定である演劇公演の戯曲の一部を事前に読んで参加し、会場で感想を語り合い演出家や俳優への質疑応答をするという構成で行った。この際、戯曲は音声、点字、テキストの3種用意し、参加者が希望する形態の戯曲を郵送した。

2024年は「見えない人も見える人も一緒に演劇に触れる 稽古場見学会」というタイトルでやはり同劇場で上演予定の演目の通し稽古を見学。その後、演出家や俳優に感想や質疑応答の時間を設ける構成で行った。

なお、これらはいずれも準備から当日の運営まで視覚障害者への情報提供施設である名古屋ライトハウス情報文化センターの協力を得て行った。

どちらのワークショップでも参加者に感想を求める時間を設けたところ、視覚障害者の方から「音声ガイドは好きではないため利用していない」「俳優がマイクを使用して声がスピーカーから音声として出力されると舞台上での位置関係がわからない」という声が聞かれた。また「視覚障害者のことを想定して作品を創作していますか」という質問がな

れた。これに対して演出家は「創作する際に（視覚障害者について）想定して行うということはしていない」という回答をしていた。

この経験を経て、作品が作られたのちにいわば後付けで鑑賞サポートが施されているが、そもそも創作プロセスにおいて障害者の存在が作り手の視座にどの程度入っているのだろうかという問いが生まれた。創作の事後ではなく、事前に障害者の存在を意識することで従来とは異なるアクセシビリティが、ひいてはあらゆる人に開かれた舞台作品が生まれるのではないかと考えるようになった。

## 研究目的

そこで本研究では、視覚障害当事者、舞台芸術作品の作り手、アクセシビリティの企画者それぞれにアンケートまたはインタビューを行い、各実態を調査し、それらの相関性または無相関について分析する。それらを通してそれぞれの新しい接点を見つけ出し、従来とは異なるアクセシビリティや創作の在り方に関する考察を行う。

具体的には以下の事項を調査する。

### 視覚障害当事者に対する調査

1. 舞台芸術作品の鑑賞への関心度
2. 劇場鑑賞に関する頻度（年間）
3. 劇場鑑賞に関して望む環境またはサポート

### 作り手に対する調査

1. 創作に着手する際またはプロセスで想定している対象
2. 劇場鑑賞を想定する場合、創作時にどの程度障害者を意識しているか

### アクセシビリティ企画者に対する調査

1. 企画時に行っている当事者へのリサーチ内容
2. 企画時に考慮、工夫している事項
3. 企画実施後に分かった課題

## 研究意義

本研究により、舞台芸術に関する新しい創作方法やアクセシビリティが生まれ、より広く開かれた劇場鑑賞環境の創出になればと思う。

## 研究方法

### 1. アンケート調査

対象：視覚障害当事者

- 1) 調査目的：視覚障害者の舞台鑑賞の実態や希望に関する調査
- 2) 調査期間：未定（今後調整する予定）
- 3) 調査対象：名古屋ライトハウス情報文化センター利用者（視覚障害者）
- 4) 調査項目：検討中
- 5) 調査方法：名古屋ライトハウス情報文化センターと相談して決定

### 2. インタビュー

対象：舞台芸術作品の作り手、アクセシビリティの企画者

#### 1) 舞台芸術作品の作り手

- ① 調査目的：創作プロセスと障害者の関連性に関する調査
- ② 調査期間：未定
- ③ 調査対象：調整中（3名程度の予定）
- ④ 調査項目：検討中
- ⑤ 調査方法：対面

#### 2) アクセシビリティの企画者

- ① 調査目的：劇場鑑賞に関するアクセシビリティ実施に関する調査
- ② 調査期間：未定
- ③ 調査対象：調整中（若干名の予定）
- ④ 調査項目：検討中
- ⑤ 調査方法：対面

これらの調査をもとに、創作、劇場鑑賞およびアクセシビリティの実態を把握し、その相関性または無相関を分析する。